

# 農業の新しい技術

No.734(令和2年(2020年)6月)  
分類コード 04 - 10  
熊本県農林水産部

## ハウスミカンでは1月中旬に天敵保護資材を用いた天敵放飼でダニ剤を削減できる

農業研究センター 果樹研究所病虫化学研究室  
担当者：神山光子

### 研究のねらい

カンキツの重要害虫であるミカンハダニは、露地栽培より施設栽培で発生が多いため、施設栽培では防除回数が増え、薬剤抵抗性が発達しやすく、特にハウスミカンでは、薬剤感受性低下が顕著である。そのため、化学農薬に代わる技術として天敵カブリダニ類を用いた試験を実施してきたが、園内の乾燥等により効果が不安定であった。

そこで、ハウスミカンにおいて、天敵カブリダニ類を乾燥から守り、比較的安定して増殖・定着させるため、新たに開発された天敵保護資材(図1および写真1)を用いた天敵放飼によるミカンハダニの防除効果を明らかにする。

### 研究の成果

1. 1月中旬に天敵保護資材を用いて天敵を放飼することで、5月下旬までミカンハダニを抑制でき、殺ダニ剤の散布を削減することができる(図2)。
2. 天敵を放飼した後、ミカンハダニが増加した場合でも、レスキュー防除を実施することで5月下旬までミカンハダニを抑制でき、殺ダニ剤を削減することができる(図3)。

### 普及上の留意点

1. 本試験で用いた天敵保護資材は「バンカーシート®」、天敵カブリダニ類は「スワルスキーカブリダニ」である。
2. 水切り期後期の乾燥とハウス開放時の湿度および気温の低下により、スワルスキーカブリダニの活動が抑制される場合があるため、その時期にミカンハダニの増加が見られたら、レスキュー防除を実施する。
3. 他の病害虫として、灰色かび病、黒点病、チャノホコリダニ、カイガラムシ類、アブラムシ類、アザミウマ類の防除が必要と考えられるため、スワルスキーカブリダニに影響の少ない農薬で防除する(参照：農研機構「新果樹のハダニ防除マニュアル」)。
4. 本試験は、平成28~29年度「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」、及び平成30年度農研機構生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」により実施した「土着天敵と天敵製剤<w天敵>を用いた果樹の持続的ハダニ防除体系の確立(28022C)」に連携協定参画機関として参画した成果である。

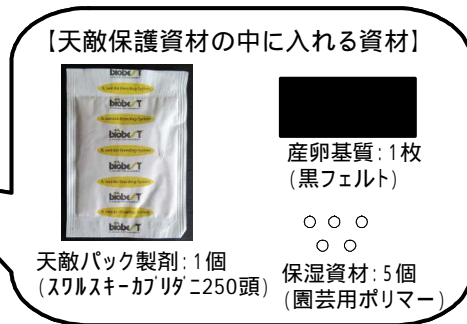
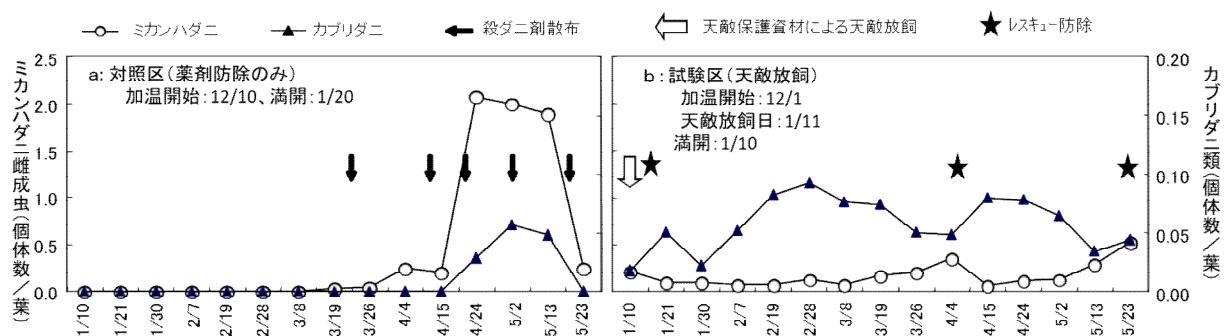
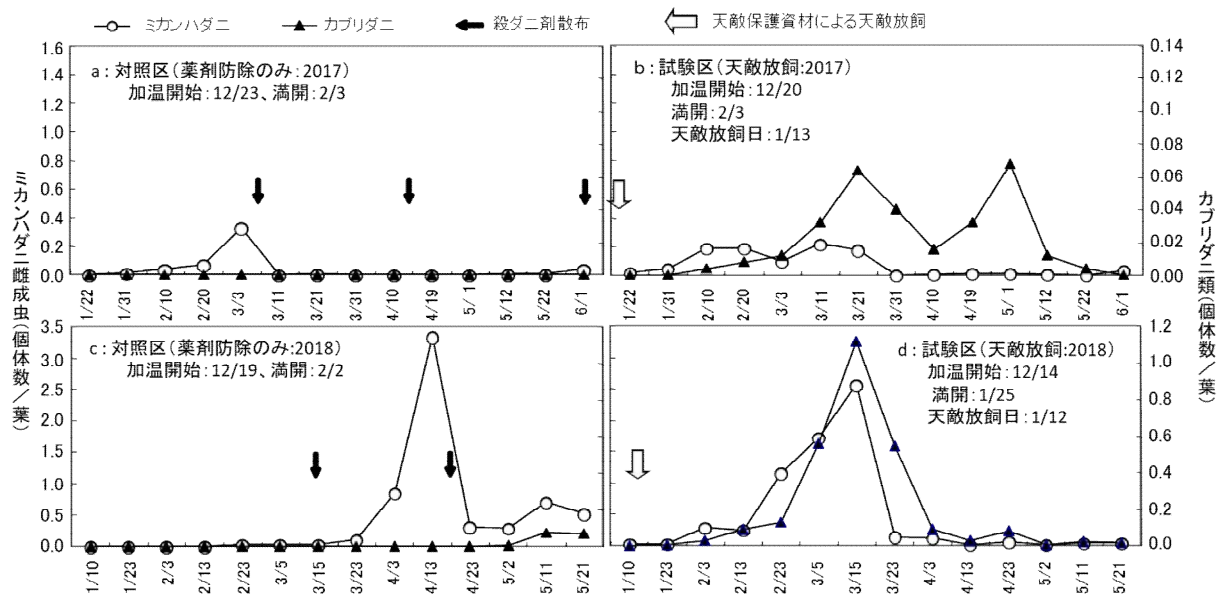


写真1 設置状況

注1) 設置位置: 赤道部の枝で直射日光が当たらない場所  
注2) 設置数: 2個 / 1樹

図1 天敵保護資材の構造



\* レスキュー防除: ハダニの増殖に応じて、天敵の働きを補い臨機で実施する殺ダニ剤の散布